

農業を始めたきっかけ	親の後継ぎ	農業を始めたきっかけ	親の後継ぎ	農業を始めたきっかけ	前からさとうキビにたずさわっていて農業でこの島を盛り上げた。
楽しいこと	収穫をしてお金をもらえること。	楽しいこと	せりの良い評価をもらうこと	楽しいこと	いろんな人との交流
大変なこと	台風の影響で馬鈴薯の収穫量が減少したり肥料代値上がったこと	大変なこと	おさんで子どもが死んだり、生き物のため事故があったりすること	大変なこと	雑草との戦い、仕事かとどれないようにきむること
今後の目標	じゃがいもを安定価格で売ること。	今後の目標	安定した収入をえて現状維持すること。	今後の目標	島の若い人達に作り方を教え、さとうキビの収穫量上げたい。



はじめに

今回の校外学習で私達のグループは畜産サトウキビ馬鈴薯伊仙町農業センターの四カ所を訪ねてインタビューを行いました。インタビューを行った様子や農業の課題について学び世界自然遺産に登録された徳之島のこれからの農業の可能性について考えました。

農業の可能性

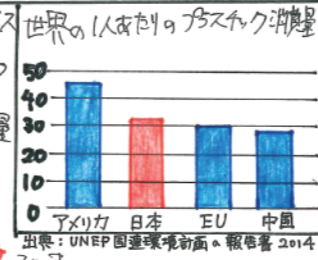
メンバー
よした あいな
みたろう トリア
けんせい しおん
みほよ

世界の海をマイクロプラスチックから守ろう!!

～マイクロプラスチックアート～

1 プラスチックゴミの現状

みなさんは、世界で使っているプラスチックの消費量はどのくらいか知っていますか？
なんと日本のプラスチックの消費量は世界で2番目に多いんです。1人あたりのプラスチックゴミの量は、年間32kgに相当する。そして生産量は世界第三位です。



陸上から海洋に流出したプラスチックの総量 (2010年推計)
出典: Jambeck 等 "Plastic waste inputs from land into the ocean" (2015)

1位 中国	353万t/年
2位 インドネシア	129万t/年
3位 フリピン	75万t/年
4位 ベトナム	73万t/年
5位 シリカ	64万t/年
20位 アメリカ	11万t/年
30位 日本	6万t/年

※推計量の最上位を記載
陸上から海洋に流出したプラスチックの発生量は人口密度や経済状態等から国別に推計し結果1-4位が東東南アジアである。



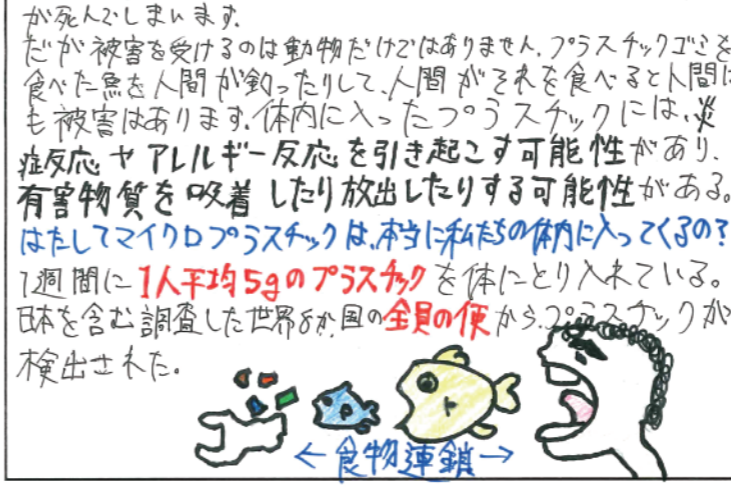
2 プラスチックゴミによる問題

世界ではプラスチックゴミによる問題はたくさん起きています。まずその早急を見たのが通りすがりのカメやエサであるワサビとかがたがいてレジ袋を食べている様子です。

そして次に右の写真を見れば分かる通り、アザラシが漁りかごの餌にからまるといった様子です。このまま首がしまりて死んでしまうことばかりあるそうです。

いろいろな人がプラスチックゴミを捨てることでたくさんの生き物が死んでしまいます。だが被害を受けるのは動物だけではなく、プラスチックゴミを食べた魚を人間が釣ったりして、人間がそれを食べると人間にも被害があります。体内に入ったプラスチックには、炎症反応やアレルギー反応を引き起こす可能性があり、有害物質を吸着したり放出したりする可能性がある。

はたしてマイクロプラスチックは本当に私たちの体内に入ってくる？
1週間に1人平均5gのプラスチックを体内に取り入れている。日本を含む調査した世界8か国の全員が使ったプラスチックが検出された。



3 マイクロプラスチックアート

作り方

- ① 捨ったプラスチックを洗う
- ② プラスチックを干す
- ③ 干している間にバナーを切る
- ④ プラスチックを貼りつける
- ⑤ 完成

「ガーガン」または「木エボ」がオススメ

(おんなお作のマイクロプラスチックアート)

(おんなお作のマイクロプラスチックアート)

4 私たちにできることは何か?

プラスチックと共に生活する方法

過去 ゴミをすくう。
そしてゴミは、ルールマナーを守って捨てる。

現在 いまあるプラスチックについて考える。

未来 いまから買う商品について考える。

私たちのメッセージ

プラスチックゴミは生態系に大きな影響を与えているだけでなく、私たち人間の身体にも悪影響を及ぼすことが分かりました。マイクロプラスチックにならしてしまうと、私たちの徳之島の海はちぎれん、南極の海にまで広がってしまいます。世界の海を守るために、クリーン作戦に参加したり、ゴミの持ち帰りや分別してリサイクルするなど、プラスチックゴミを海へ出さない行動しましょう。

のせたかさん 林倫成さん お世話になりました。

伊仙町農業センター

伊仙町農業センターの義山さんは、伊仙で農業をしたい*エターニティーと研修生は一年かけて園芸作物の野菜の作り方を指導しています。一年の研修期間の間、エターニティー種や肥料の使い方や収穫の仕方などを教えています。農業の分野は全体的に難しいです。

義山さんは今後の目標についてインタビューしたところ「伊仙町のために有機JASを広めていきたい」と言っていました。

自然遺産と農業

伊仙町農業センターの義山さんは、伊仙で農業をしたい*エターニティーと研修生は一年かけて園芸作物の野菜の作り方を指導しています。一年の研修期間の間、エターニティー種や肥料の使い方や収穫の仕方などを教えています。農業の分野は全体的に難しいです。

義山さんは今後の目標についてインタビューしたところ「伊仙町のために有機JASを広めていきたい」と言っていました。

世界自然遺産

感想

私は今回の校外学習で農業に興味を持ち、農業についていろいろお話を聞きました。農業は、自然と人間のつながりを感じることができ、とても大切な仕事だと思います。また、お話を聞いたことで、農業の現状や課題について理解が深まりました。農業は、私たちの生活を支えているだけでなく、自然環境を守る役割も果たしています。農業を学ぶことで、自然と人間のつながりを大切にし、持続可能な社会を実現したいです。

有機JASとは?

科学的肥料を使わずに栽培を行うことで環境に配慮したとて、20年後有機栽培が当たり前になる可能性があります。

福山陽太

今回の校外学習で徳之島の農業の大切さを知りました。徳之島の農業と自然遺産がうまく共存してほしいです。

河原太郎

島が自然遺産になったことで、たくさんのお話を聞きました。島の農業への不満や問題点を学ぶことができました。徳之島が盛り上がることを願っています。

前におん

宝さがしエコツアー

・らいち
[メンバー] ・らむり ・おうき ・りあ
・みお ・あおい ・おうか

鹿浦港

鹿浦港は、1841年に整備された比較的新しい港です。明治44年の喜界地震を原因とするがけずれにより人畜共に大きな被害を受けたが、大正年間をピークに賑わいを見せた。

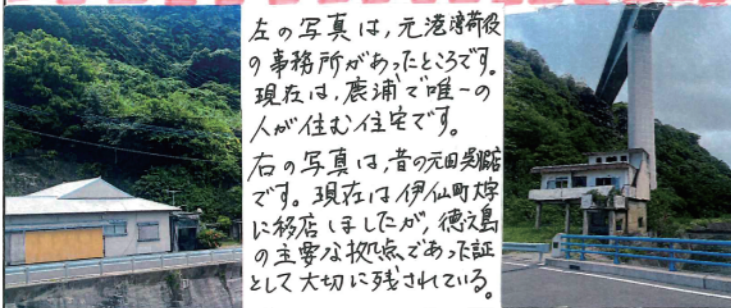


戦後

陸路中心となった輸送手段の移行によって港町は寂れ、昭和39年の大規模な水害によりその港湾機能に終止符が打たれた。

現在

水害後の再整備を経て漁港として活用されている。
(伊仙町文化遺産データベース)



左の写真は、元港務局の事務所があったところ。現在は、鹿浦マリンの人が住む住宅です。右の写真は、昔の元田舎路です。現在は伊仙町庁に移設しましたが、徳之島の主要な拠点である証として大切に大切に残されています。

右の写真は、ヨヲキ洞穴です。ヨヲキ洞穴は、昭和59年のカムイヤキ陶器発掘調査の際に見られました。洞穴内には約4,500~1,000年前の生活痕が残り、カムイヤキや土器、貝、骨で作られた様々な道具が出土しました。遺跡からの出土品は伊仙町歴史民俗資料館にご覧いただけます。



(ヨヲキ洞穴)

徳之島にはきれいな海がたくさんあります。ぜひ見てくださいね。



120過ぎまで長生きした、泉重千代さんも、私たちと同じ、徳之島で生きていたそうです。



こちらは我々伊仙町の役場です。今は、新しい庁舎ができましたのでぜひ見に行ってください。



カムイヤキ

カムイヤキの森は、同町伊仙(義名山)-検橋地区にかけた奄美群島国立公園(普通地域)を含む照葉樹の国有林。中世期の南島系陶器土器の窯跡群遺跡「徳之島カムイヤキ陶器窯跡」周辺の交群などを包含。燃料用の松ヤニ採取痕、旧日本軍が巡らせたという敵兵塚の戦争遺跡も存在。

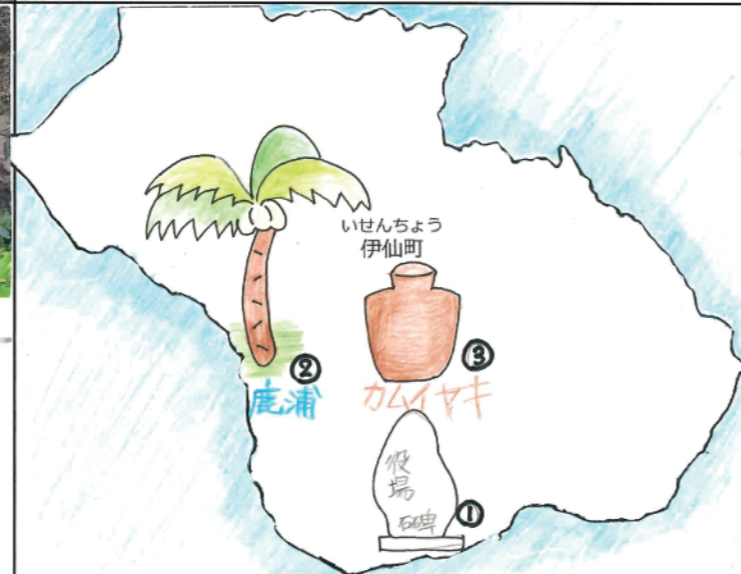
~動植物~

カムイヤキには、たくさんの動植物が生きているので、身の安全に気をくばりましょう。

よく見てみると、ヒメハジリ



カムイヤキの森



~オススメ~

上の図の番号の、①→②→③の川順番でまわったあと、義名山公園で風食を食べたり、子連れの場合は公園で遊ぶのもオススメです。

☆感想

僕は今日の校外学習を通して、私は、校外学習で今まで身近にあって今まで知らなかったことか、知ることができました。

徳之島の生態系を守ろう!!

Let's protect Tokunoshima's ecosystem

[Member] ・Reon ・kentarou ・Tokia ・Syuei
・Coco ・Nene ・Riko

2023. 9. 21. Thu

〈シロアゴガエル〉

シロアゴガエルは、貨物にまぎれて、海外から来たカエル。今年5月に発見され、特定外来種のため駆除作業が行われていて、現在、カエル3500匹、卵塊は、2700個を捕まえている。1匹のメスが何度産卵し、17の卵塊から300~400匹のオタマシ+ワシが産まれる。徳之島では、カエルが活動する夜に沈砂池など33ヶ所の水場を回りシロアゴガエルを捕まえているが生きのまま運ぶのは禁止されているので、塩の入った容器に入れてその場で駆除する。

徳之島にはもとより7種類のカエルがいて、奄美大島には9種類のカエルがいる。



剝岳林道は、2016年12月から一帯に分布する希少な動植物の保護を目的に車両の通行規制を始めた。2019年4月以降、エコツアーガイドの同伴のもと入林できる。剝岳林道は全長約、2.3kmで、急な坂道はほぼなく、初心者でも歩きやすい。

〈剝岳で出会った動植物〉

<p>マーグがある リュウキュウハクゴロムシ ・氷皿を好む ・羽が黒い ↳マーグつきメス 体がメグリップアル→オス</p>	<p>ハゼ ・赤い葉、外来種 ・実から上質なワケができる。(わらわわ)</p>	<p>ワロウサギのふん ・においはしない 臭くはない 木の皮、葉っぱ どしどし食べているから。</p>	<p>アマミヤマガエル ・目の横に印 ・あかっぱて、みつけにくい。</p>	<p>アコウノキ ・がしゅマルに似ている ・根はほそい ↓ ・地面につくと太くなる ・光合成のために、上にのぼっていく。 ・他の木は死ぬ 別名: いぶの木</p>
<p>アマミハナササガエル ・シメツアガがすごい ・メスのほうがオスより大きい ・奄美より徳之島のほうが</p>	<p>森のえびふらい(秋田県産) ・ナナホシトビを食べる ・木の上で生活しているから</p>	<p>イニシシキをほった様 ・ガニがたかさんいる</p>	<p>オキナクサノボリカガ ・木の上で生活しているから</p>	<p>フィールドワークのまとめ</p>

感想

僕は、今回の学習を通して、身近なことに徳之島で見られるような、貴重な動物がたくさんいることに感銘しました。それからは、この生き物たちを守り、生きていけるように行動していきたいです。牧野光輝君
僕は、今回の校外学習で、外来種のシロアゴガエルを知って、人が外来種は徳之島の環境を壊してしまうから、くばるべきで、くばるべきで、自然がくずれてしまうから、自然を守りたいです。
僕は、この校外学習で、徳之島には、たくさんの生物や植物があって、生物の多様性、肉体的健康、というのをすごく分かりました。また、きかいがあれば、行きたいです。重村小治君
僕は、この校外学習で、徳之島の森には、たくさんの生き物たちがいて、環境が破壊されないように、生活して徳之島の森を大切にしたかった。政原栄